

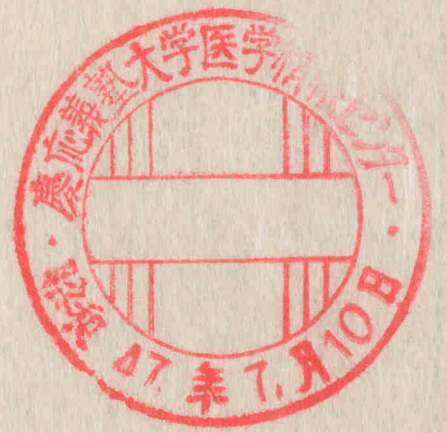
解剖訓蒙

神經論

十八

491.1
Ka-2
17

No. 794



富士川文庫

2444

解剖訓蒙卷之十八

米利堅解剖學教頭約瑟列第著
日本文部省出仕副島之純譯

神經論

脊髓神經
脊髄神經

柱ニ関涉スルニ從ヒ區別シテ頸神經八對、背神經十二對、腰神經五對、薦骨神經五對、尾骶骨神經一對ト做ス

此神經ハ皆十前後兩根ニテ、脊髄ノ前側后側兩

一對ト做ス

此神經ハ皆十前後兩根ニテ、脊髄ノ前側后側兩

一對ト做ス

甲
ウ
ル
ホ
フ
ラ
ル
子
ル
ウ
ス

裂間ヨリ起此此两根ハ各其起點ヨリ輻輳スル
扁平ナル縦條ヨリ成レリ而テ前根ハ上方二對
頸神經ヲ除ク他皆ナ后根ニ比スレハ其條巨大
且ツ許多ナリ蓋シ此根中最大ナル者ハ上肢ニ
布蔓スル下方四對頸神經及ヒ初對背神經ノ根
ト下肢ニ布蔓スル下方三對腰神經及ヒ上方二
對薦骨神經ノ根ナリ
前後两根ハ椎間薦骨二孔ニ對シテ會合シ側々
并向シ各別ナル硬膜孔ヲ穿貫ス
脊髓ハ脊椎柱ニ比スレハ短矮ナルヲ以テ此神

經根硬膜ヲ穿貫スル部位ニ達セシ爲メニ初對
ヨリ終對マテ逐次ニ延長シテ其方向モ亦隨テ
傾斜シ始メ横緯ニシテ終ニ一直線ト爲ル故ニ
腰薦骨尾骶骨三神經ノ根ハ聚合シテ厚キ一束
ト爲リ硬膜莢ノ下部ヲ填實ス
后根ハ帶赤灰白色ノ卵圓形神經節ヲ具有シテ
此ヨリ纖維ヲ副加シ前根ハ此神經節ニ抵觸ス
ルモ纖維ヲ副加セズ而テ两根共ニ此神經節ノ
直外ニ於テ會合シ一幹ノ脊髓神經ト爲レリ
此神經ハ其幹短圓ニシテ两根ノ纖維ヲ混合シ

薦骨、尾骶骨兩神經ノ他、皆十椎間孔ヨリ出テ、而
 后千、前后兩枝ニ分岐ス。薦骨、尾骶骨兩神經ハ脊
 椎管中ニ於テ、既ニ前后兩枝ニ分岐シ、而后千各
 其薦骨孔ヨリ出ツ

初對脊髓神經ヲ除ク他、都テ其前枝ハ后枝ニ比
 スレハ巨大ニシテ、四肢及ヒ脊椎柱前即チ軀幹
 前部ニ布蔓シ、后枝ハ軀幹ノ后部ニ布蔓ス

前根ハ、其官運動ヲ主宰シ、后根ハ、知覺ヲ管司シ
 而テ此兩根ノ混合ニテ形成スル神經ハ、知覺運
 動兩機ヲ併セ主サトリ、頭顱ヨリ以下、全身ノ筋

及ヒ皮膚ニ布蔓ス

頸神經

頸神經

子ルルガス

八、都テ八對有リ、初對ハ枕骨

ト頸椎ノ第一片トノ中間ニ於テ、脊椎管ヲ出テ、

終對ハ頸椎ノ第七片ト、背椎ノ第一片トノ中間

ニ於テ、椎間孔ヲ出シ、而テ初對ヨリ終對マテ、次

第二其大サヲ加テ、脊椎管ヲ出テ、直チニ前后兩

枝ニ分岐ス

頸神經后枝

初對頸神經ノ后枝

ハ、其前枝ニ比ス

甲子ルルガス

レハ大ニシテ、頸椎第一片ノ弓ト脊椎動脈トノ中間ヨリ出テ、分散シ諸纖維ト爲シ其一個ノ纖維ハ、下行シテ第二對ニ結合シ自餘ハ、其近傍ノ直筋、斜筋、錯綜筋ニ布蔓ス

第二對頸神經ノ右枝ハ、頸神經ノ右枝中最大ナル者ニシテ、頸椎ノ第一第二片ノ弓ノ中間ヨリ出テ、第一對ノ結合纖維ヲ接取シ、而后チ内外兩枝ニ分歧ス而シテ其外枝

エキステルナハ、錯綜筋、

夾板筋及ヒ頸乳頭筋ニ布蔓シ、内枝

ル、イニテルナ

ハ枕骨神經

ビタリト、多シト稱スル者ニシテ、錯

甲子、シビタリス、マダノス

綜筋及ヒ僧帽筋ヲ穿貫シ、枕骨動脈ト共ニ、枕骨ノ筋、皮膚ニ布蔓ス、下方六對頸神經ノ右枝ハ、頸椎ノ横突起間ヲ沿ヒ、右方ニ通過シテ内外兩枝ニ分歧ス而シテ其外枝ハ、上行頸横頭、頸乳頭ノ三筋ニ布蔓シ、内枝ハ、前者ニ比スレハ大ニシテ、第三四五對ヨリスル者ハ、内方頸椎ノ棘狀突起ニ向ヒ、而后チ外方ニ向フテ、皮膚ニ布蔓ス、下方三對ヨリスル者ハ、錯綜、半棘、分裂棘三筋ニ布蔓ス

頸神經前枝

頸神經ノ前枝

ブアランテリス、ハ、初對ヨリ終對マ

ル、初對ヨリ終對マ

ル、初對ヨリ終對マ

ル、初對ヨリ終對マ

ル、初對ヨリ終對マ

ル、初對ヨリ終對マ

ル、初對ヨリ終對マ

ル、初對ヨリ終對マ

テ、漸次ニ加大シ、皆十前方ニ向テ、脊椎動脈ノ外側ニ至ル、其初對ノ三、特ニ頸椎第一片ノ上方ニ於ケル脊椎動脈ノ地平廻轉下ニ位ス

上方四對頸神經ノ前枝ハ或ハ各分岐シ或ハ互ニ合吻シ以テ一列ノ環狀ヲ形成ス之ヲ頸叢ト稱ス

下方四對頸神經ノ前枝ハ前者ニ比スレハ甚タ巨大ナリ、亦タ或ハ分岐シ或ハ合吻シ且ツ初對背神經ノ前枝ニ合吻シ以テ上臂叢アブプレキチエスヲ形成ス

甲
乙
丙
丁
戊
己
庚
辛
壬
癸
子
丑
寅
卯
辰
巳
午
未
申
酉
戌
亥

頸叢

頸叢

セルガ非カルプ
ハ、上方四對頸神經ノ前枝ノ

分岐合吻ニテ形成シ頸椎ノ上方四片ニ對シ胸

骨乳頭筋ノ底下、即チ中不齊筋及ヒ肩胛角舉筋

ノ上ニ占居シ、合吻纖維ニテ交感神經ノ上頸神

經節、交感神經幹及ヒ肺胃副行、舌下ノ三神經ニ

結合シ、上臂叢ニ萌蘗ヲ資給シ、且ツ左ノ枝別ヲ

分與ス

諸筋枝

表頸神經

大耳神經

小枕骨神經

鎖骨上神經

橫隔神經

中間ヲ下行シ鎖骨胸部及ヒ肩胛部ヲ被覆スル
皮膚ニ布蔓ス

第六横隔神經子フルダニキハ、頸叢ノ最モ緊要ナル

枝ニシテ第三四兩對頸神經ヨリ來リ、第五對頸

神經、即チ上臂叢ノ初端ヨリ萌蘗ヲ受ケ前不齊

筋ヲ下行シ、鎖骨下動靜兩脉ノ中間ニ於テ胸腔

ニ竄入シ、胸膜ト心囊ノ中間ニ於テ肺根ノ前方

ヲ下行シ、横隔ニ布蔓シ其經歷中、交感神經ノ下

方二個ノ頸神經節ヨリ、合吻纖維ヲ受容シ心囊

ニ纖維ヲ分授ス

上臂叢

上臂叢レブラチアルプハ、上肢ニ布蔓スル者ニシ

テ下方四對頸神經及ヒ第一對背神經兩前枝ノ

分岐合吻ニテ形成シ頸椎ノ側方ヨリ腋下一瀾

漫シ烏啄突起ニ對シテ分岐シ數個ノ大ナル延

長ト爲シ其經歷中、前中兩不齊筋ノ中間ニ在テ

外方ニ通過シ斜メニ鎖骨ノ底下ヲ下行シ腋下

ニ達ス而テ始ハ鎖骨下血管ノ上方ノ稍后方ニ

位シ后チ腋下血管ノ后方ニ位シ終ニ諸枝ト爲

リ此脉ヲ圍擁ス

蓋シ此叢ノ成形ハ變態異狀有リテ一定セズ其
最モ尋常一樣ナル者左ノ如シ第五對頸神經斜
メニ下行シテ第六對頸神經ニ結合シ一幹ト爲
リ此幹又々第七對頸神經ニ締着シ以テ一大幹
ヲ形成ス第一對背神經斜トニ上行シテ第八對
頸神經ニ結合シ亦々一幹ヲ形成ス如此クシテ
形成スル兩幹各々一枝ヲ分授シ此枝互ニ束緝
シテ第三幹ヲ形成ス此三幹中甲ハ腋下動脈ノ
外側乙ハ其内側丙ハ其后方ニ位シ而テ三幹共
ニ枝別ヲ上肢ニ分與ス

此叢鎖骨ノ上方ニ於テ分與スル枝別ハ多分胸
側及肩胛ニ布蔓シ鎖骨ノ下方ニ於テ派付スル
枝別ハ此叢ノ末枝ニシテ多分上肢ノ全經ニ達
ス乃チ左ノ枝別是ナリ

- 諸筋枝 肩胛上神經 胸神經
- 肩胛下神經 小皮神經 内皮神經
- 外皮神經 廻旋神經 中神經
- 尺骨神經 筋螺旋神經

第一諸筋枝
マラスキユスハ上臂叢ノ初端ヨリ來
リ不齊筋長頸筋菱狀筋上鋸筋及ヒ鎖骨下筋ニ

甲子ノブスカヒユリス

第二肩胛上神經 エソプラケルスカピ ハ上臂叢ノ外幹ヨリ來リ、外後方ニ進行シ、肩胛上孔ヲ穿通シテ、棘上棘下ノ兩筋ニ布蔓ス

乙子ラシコスホスアリオル

第三胸神經 ソラシクハ前後兩個アリ 后胸神經 ポステリオルソハ前者ニ比スレハ長大ニシテ

丙子ルギラシシ

第五六兩對頸神經ヨリ來リ、大鋸筋ノ前部ヲ下行シテ、此筋ニ布蔓ス。前胸神經 アシテリオルソ ハ通常兩枝ヨリ成リ、上臂叢ノ内外兩幹ヨリ來リ、鎖骨ノ底下ヲ經過シテ、胸筋ニ布蔓ス

甲子ノブスカヒユリス

第四肩胛下神經 ソブスカピユ ハ三個アリ、第一

對背神經ヲ除ク他、都テ上臂叢ノ神經ヨリ來ル纖維ニテ起ル、而テ三個中最大ナル者ハ肩胛

下筋ノ外側ニ沿テ下行シ、潤背筋ニ布蔓シ、其二

三ノ纖維ハ下鋸筋ニ到ル、自餘兩者ハ肩胛下筋

及ハ圓筋ノ上部ニ到リ、此兩筋ニ布蔓ス

乙子キタニエースマイ

第五小皮神經 ニスモリスルキエ ハ上臂叢ノ初對背神經ヨリ來リ、腋脈及ヒ上臂脈ノ内側ニ沿テ下行シ、殆ト上臂ノ中央ニ到リ、而後ナ上臂筋

突起ノ中間即チ肘關節ニ達ス其經歷中肋間上
臂神經ニ合吻シ上臂ノ下方内側ノ皮膚ニ布蔓
ス

上臂叢ノ自餘ノ枝別ハ概テ皆十其末枝ニシテ
腋ノ下部ヨリ來リ多分上肢ノ全經ニ達ス

第六^甲内皮神經タイニユトルナルキユハ上臂叢ノ内

幹ヨリ來リ上臂脈ノ内側ヲ下行シ其中央ニ到

リ筋莖ヲ穿貫シテ大小兩枝ニ分歧ス小枝一スモ

ニチハ貴要靜脈ノ内側及ヒ内髀ノ後方ニ下行

シ下臂後部ノ皮膚ニ布蔓ス大枝ブララニセルハ上

甲子五三ノ大イニテ

甲子五三ノ大イニテ

臂下臂ノ内前部ヲ下行シ其近傍ノ皮膚ニ布蔓

シ而テ其枝別中一個ハ肘關節ニ於テ中貴要靜

脈ノ上方ヲ通過シ自餘ハ下方ヲ經行シテ殆ト

此脈ノ貴要靜脈ニ終ル所ニ達ス蓋シ大枝ハ此

神經ノ延辰ニシテ此神經ハ上臂叢ノ内幹ノ末

枝中叢小ナル者ナリ

第七^甲外皮神經エキニユトルナルキユハ上臂叢ノ

上部ノ神經ヨリ來リ鳥啄上臂筋ヲ穿貫シ兩頭

屈筋上臂筋ノ中間ヲ通過シテ上臂ノ外部ニ到

ル爰ニ於テ上臂筋莖ヲ穿貫シテ兩枝ニ分歧ス

其一枝ハ、中脳静脈ノ前方ヲ過キ、一枝ハ、下方ヲ
 経テ共ニ下臂ノ外部ニ沿ヒ、腕關節ニ下行シ、其
 經歷中、烏啄上臂兩頭上臂ノ三筋ニ枝別ヲ分付
 シ、而テ末枝ハ、多分下臂外部ノ皮膚ニ布蔓シ、寂
 少ナル者ハ、撓骨神經及ヒ筋螺旋神經ノ纖維ニ
 合吻ス、此神經ハ、前者ニ比スレハ、大ナリ

甲子、シルコムフレキス

第八 廻旋神經

シルコムフレキス、子ルムダレハ、後廻旋脈ト、共ニ

上臂骨ノ上部ヲ回轉シ、小圓筋、三角筋ニ布蔓シ、
 其一二ノ枝別ハ、肩胛關節ト、上臂後部ノ皮膚ト
 ニ布蔓ス

甲子、メジアノス

第九 中神經

メジアノス、子ルダレハ、上臂叢ノ内外兩幹ヨリ

來リテ、腋下動脈ヨリ圍擁スル兩根ニテ起リ、上臂
 動脈ニ接シテ下行シ、肱關節ニ到リ、其前方ヲ横
 行シテ、方廻前筋ノ底下ヲ經テ、後キ淺諸指屈筋
 ト、深諸指屈筋ノ中間ヲ過キ、腕關節ニ到リ、環狀
 靱帶ノ底下ヲ通シテ、手掌ニ達シ、其經歷中、左ノ
 枝別ヲ分與ス

イ 諸筋枝

マスキユエハ、尺腕屈筋ヲ除ク他、下

臂ノ前部諸筋ニ布蔓ス

ロ 前骨間神經

アンテリオル、子ルダレハ、同名ノ

乙 子、イントルノス

甲
子。パルマリス。ソ。ペル
ヲシ。アリ。ス

動脈ニ從ヒ、下臂ノ前部諸深筋ニ布蔓ス

ハ表掌枝

ルソ。ペル。ス。ラ。シ。ア。ル。ハ。腕關節近傍ノ

下臂筋莖ヲ穿通シ手掌ノ皮膚ニ到リ爰ニ布

蔓ス

二筋枝

グ。マ。ス。キ。ユ。エ。ハ。拇指球ノ諸筋ニ布蔓ス

ホ指神經

子。デ。ジ。タ。ル。ハ。五個有リ、初ノ兩個ハ、拇

指ノ兩側ニ到リ、中個ハ、示指ノ外側ニ沿テ走

リ、終ノ兩個ハ、第二第三掌骨ノ中間ヲ進行シ

テ、各、兩枝ニ分歧シ、而后チ示指、中指及ヒ環指

ノ相對スル側ニ布蔓ス、蓋シ最終一個ハ、尺骨

神經ヨリ交通枝ヲ受ク

此神經ハ、皆十第一指骨ノ根蒂ニ於テ、各、背枝

ブ。ド。ル。サ。ル。チ。ヲ。分岐ス其背枝ハ、指背ノ縁ニ沿テ

走り、指ノ尖頭ニ到リテ、兩枝ニ分歧シ、一枝ハ

指尖ニ一枝ハ爪下ニ布蔓ス

第十尺骨神經

子。ル。ガ。ナ。ル。ハ。上臂叢ノ内外兩幹ヨ

リ來リ、中神經ノ后方ヲ下行シ、此神經ト次第ニ

離隔シテ、鈎狀突起及ヒ内髁ノ中間ニ到リ、尺腕

屈筋ノ起點ヲ穿貫シテ、此筋ト深諸指屈筋ノ中

間ヲ進行シ腕關節ニ到リ、豆骨ニ接シテ、環狀韌

帶ヲ起エ、手掌ニ到ル、蓋シ此神經ハ、中神經ニ比スレハ小ニシテ、其經歷中、左ノ枝別ヲ分與ス

イ 關節枝

ア、イ、チ、キ、ユ、エ、ハ、肱關節ニ布蔓ス

ロ 筋枝

プ、マ、ラ、ン、チ、ス、ハ、尺腕屈筋及ヒ深諸指屈筋ニ布蔓ス

筋ニ布蔓ス

ハ 皮枝

キ、ユ、タ、ニ、ユ、ス、ハ、下臂内部ノ皮膚ニ布蔓ス

蔓ス

ニ 背枝

ブ、ド、ラ、ン、サ、ル、ハ、尺腕屈筋ノ腱下ヲ通過シ

テ、手背ノ皮膚ニ布蔓ス

ホ 深掌枝

ル、デ、ブ、ラ、ン、パ、ル、ハ、同名ノ脉ニ從ヒ、小

甲子ドレサリスハメノス

指ノ諸小筋、骨間筋及ヒ蟲狀筋ニ布蔓ス

ヘ 指神經

デ、ジ、タ、ル、ハ、二個有リ、一ハ短掌筋ト、

手ノ内部ノ皮膚ニ、枝別ヲ分與シ、而后チ小指

ノ内側ニ沿テ走リ、一ハ終掌骨ノ間隙ヲ通過

シ、中神經ノ終指神經ニ、筋葉ヲ分資シ、后チ兩

枝ニ分岐シ、環指小指ノ相對スル兩側ニ布蔓

ス

第十一筋 螺旋神經

マ、ス、キ、ユ、ロ、ス、バ、ハ、上臂叢ノ

后幹ヨリ來リ、三頭伸筋ト、上臂骨ノ中間ニ於テ

上深在動脈ト、共ニ上臂ノ后部ヲ半廻シ、長廻后

甲子ドレサリスハメノス

筋ト、上臂筋ノ中間ヲ下行シテ、肘關節ニ到ル爰ニ於テ、橈骨、后骨間兩神經ニ分岐シ、其經歷中三頭伸筋、肘筋、上臂筋、長廻后筋、及ヒ長撓腕伸筋ニ筋枝マラスキユラヲ分與シ、上臂及ヒ下臂ノ内側ニ於ケル皮膚ニ皮枝スキユラニユラヲ分與シ蓋シ此神經ハ、上臂叢ヨリ來レル神經中、最大ナル者ナリ

イ 撓骨神經ラジアルハ、下臂ノ外側ニ沿テ走り、長廻后筋ノ腱下ヲ通過シ、筋叢ヲ穿貫シテ、枝別ト爲ル、此枝別ハ、外皮神經ニ合吻シテ手

ノ外后部及ヒ、指、示指、中指ノ背部ニ於ケル皮膚ニ布蔓ハ、此神經ハ、母幹ノ兩枝中、小ナル者ナリ、

口 后骨間神經ポステリオルイグハ、短廻后筋ノ底下ヲ通過シテ、下臂ノ后部ニ到リ、爰ニ於テ枝別ト爲リ、長撓腕伸筋ヲ除ク他ノ諸伸筋ニ布蔓ス、其末枝ハ骨間膜ヲ下行シテ、腕關節ノ后部ニ到リ、爰ニ布蔓ス

背神經

背神經ソラダシクハ、十二對有リ、初對ハ、背椎ノ上

甲
ドルル子ルダス

方二片ノ中間ニ於テ椎間孔ヨリ出テ終對ハ背
椎ノ第十二片ト、腰椎ノ第一片トノ中間ニ於テ
椎間孔ヨリ出以而テ初對ハ最大ニシテ他ノ對
ハ其大サ皆均一ニテ、各椎間孔ヲ出ル后矢、前後
兩枝ニ分岐ス

背神經后枝

背神經ノ后枝ボス テリ オルモ、亦夕前枝ニ比ス
レハ小ナリ、背椎横突起ノ中間又、后方ニ廻轉シ
テ内外兩枝ニ分岐ス

外枝エキ ス ト ル ナハ初對ヨリ終對ニ到ルマテ

次第ニ其大ヲ加エ、長背筋ト薦骨腰筋ノ中間ニ

露出シテ、此兩筋ニ布蔓ス下方ノ六對ニ於テハ、

此兩筋ニ布蔓スル他、更ニ皮枝キユ タ ニ ユヲ

分與ス、此皮枝ハ、下鋸、潤背二筋ヲ穿通シテ肋骨

角ノ近傍ニ於ケル皮膚ニ布達ス

内枝イン ト ル ナハ、上方六對ニ於テハ、分裂筋

ト、半棘筋ノ中間ニ露出シテ、此兩筋ニ纖維ヲ分

與シ、而後矢背椎棘狀突起近傍ノ皮膚ニ布蔓ス

下方六對ニ於テハ、分裂棘筋ニ終ル

背神經前枝

背神經前枝

前枝 ブアランテリスオル ハ、各分散シテ、自餘ノ脊椎神經ニ於ケル如ク合吻セサルヲ以テ、叢ヲ形成セ
 ス、唯夕其初端ハ、一對ノ合吻纖維ニテ、其近傍交
 感神經ノ背神經節ニ交通ス、初對ニ於テハ、自餘
 ニ比スレハ大ニシテ、肋骨ノ初片ヲ超越シ、上行
 シテ、上臂叢ノ一部ヲ形成シ、其經歷中、一小枝ヲ
 分與ス、之ヲ初對肋間神經 コリスタル、イニトル
 稱ス、第一肋間隙ヲ進行ス、自餘ノ十一對ニ於テ
 ハ、其大サ概子同一ニシテ、終對ノ他皆十肋間神
 經 イニトル、コリスタル、イニトルト爲リ、肋間隙ニ在リテ、外方ニ

申子イントルコリス

進行ス

終對ノ前枝 ハ、肋骨終片ノ下方ニ位シ、方腰筋ヲ

横行シテ、内斜腹筋ト横腹筋ノ中間ヲ進行スル

恰モ肋間神經ノ肋間隙ヲ進行スル如シ、蓋シ其

初端ニ於テ、屢初對腰神經ニ、合吻纖維ヲ分與ス

肋間神經

肋間神經 タイニトル、コリスタル ハ、其數十一對アリ、初對

ハ、細小ナル枝ニシテ、初對背神經ノ前枝ヨリ來

リ、第一肋間隙ノ筋ニ布蔓ス、自餘十對ハ、第二乃

至第十一對背神經ノ前枝ヨリ來リ、下方十個ノ

甲 ラキユタ子ト、イトルニ

肋間隙ヲ外方ニ進行ス始メハ外肋間筋ニ占據
 シテ同名ノ動靜兩脉ノ下方ニ在リ、次ニ内外兩
 肋間筋ノ中間ヲ通過シ、而後チ内肋間筋ヲ穿貫
 シテ此筋ト胸膜ノ中間ヲ進行ス而テ終ニ上部
 ノ者ハ、肋間隙ノ前部、及ヒ大胸筋ヲ穿貫シテ胸
 前皮神經アシニテリオル、キユタニユリト爲リ、胸
 壁前部ノ皮膚ニ布蔓ス、下部ノ者ハ、胸下縁ノ肋
 軟骨ヲ超越シテ、内斜腹筋ト横腹筋ノ中間ヲ進
 行シ、直腹筋ニ至リ、此ヲ穿貫シテ、腹前皮神經アシ
 行リ、テリオル、キユタニユリト爲リ、腹壁前部ノ
 ルダス、ヲダゼ、アブドローメン

乙 ラキユタ子ト、イトルニ

中線ニ了ル、ラキユタ子ト、イトルニ
 都テ此神經、其經歷中、近傍ノ諸筋ニ、枝別ト兼テ
 側皮神經ラテラル、キユタニユリト爲リ、
 外肋間筋ヲ穿貫シテ、上方ハ大鋸筋ト、下方ハ外
 斜腹筋ノ中間ヲ通過シ、胸腹側部ノ皮膚ニ布蔓
 ス蓋シ第二對ノ側皮枝ハ、所謂肋間上臂神經アシ
 合吻シ、上臂内部ノ皮膚ニ布蔓ス

甲 ラキユタ子ト、イトルニ

腰神經アシ
 合吻シ、上臂内部ノ皮膚ニ布蔓ス

乙 ラキユタ子ト、イトルニ

腰神經アシ
 合吻シ、上臂内部ノ皮膚ニ布蔓ス

ト第二片トノ中間ニ於テ、椎間孔ヲ出テ終對ハ、
 腰椎ノ終片ト、薦骨トノ中間ニ於テ、椎間孔ヲ出
 ツ皆テ頸神經背神經ノ如ク前後兩枝ニ分岐ス
 後枝ボステリオルハ、腰椎橫突起ノ中間ヲ後方
 ニ進行シ、長背筋ト、薦骨腰筋トノ中間ヲ穿貫シ
 テ此兩筋ニ枝別ヲ分授シ、且ツ其近傍ノ皮膚ニ
 纖維ヲ分與ス、蓋シ此枝中、下位ノ者ハ、上位ノ者
 ニ比スレハ、次第ニ増大ス
 前枝アランテリオルハ、斜ニ外下方ニ進行シテ、
 半ハ兎筋ヲ穿貫シ、半ハ其後方ヲ通過シ爰ニ於

テ上位ノ者ハ、下位ノ者ニ崩蕪ヲ給資以而テ上
 方四對ニ於テハ、如此ク合吻シ、且ツ終對背神經
 ヲ以、纖維ヲ受容シ、以テ腰叢ヲ形成シ、第四對ニ
 於テハ、其崩蕪第五對ト共ニ薦骨叢ノ一部ヲ形
 成ス、蓋シ此枝モ亦タ次第ニ増大シ、其初端ニ於
 テ各一對ノ吻口纖維ニテ、其近傍交感神經ノ腰
 神經節ニ交通ス

腰叢

腰叢ロキシパユルハ、上方四對腰神經ノ前枝ト、終
 對背神經ノ纖維トノ合吻ニテ形成シ、兎筋及ヒ

甲プレキシスロニバリ

方腰筋ニ布蔓スルノ他ニ左ノ枝別ヲ分與セ
リ

腸骨下腹神經 腸骨鼠蹊神經

生殖脚神經 外皮神經

鎖孔神經 脚神經

第一腸骨下腹神經アイルコハイボガハ初對腰

神經ヨリ來リ免筋ヲ貫穿シ方腰筋ヲ横行シ腸

骨脊ニ到ル而后夕又夕横腹筋ヲ通徹シ此筋ト

内斜腹筋トノ中間ヲ進行シテ鼠蹊管ニ到リ此

管ヲ下行シテ耻骨ヲ覆エル皮膚ニ布蔓ス

甲子アイルコハイボガハ

甲子アイルコハイボガハ

第二腸骨鼠蹊神經アイルコハイボガハ前者ト共

ニ初對腰神經ヨリ來リ亦夕免筋ヲ穿テ腸骨筋

ヲ横行シテポール小軟帶ニ到ル而后夕横腹

筋ヲ貫スキ鼠蹊管ヲ下行シ或ハ陰莖及ヒ陰囊

或ハ陰唇ノ皮膚ニ展布ス

蓋シ以上兩神經ハ其大小一定セズ通常一個細

小ナルハ他個増大シ之ヲ補助ス

第三生殖脚神經アイルコハイボガハ第二對腰神經

ヨリ來リ免筋ヲ穿通シ其前面ヲ下行シテ兩枝

ニ分歧ス其一枝ヲ生殖枝アイルコハイボガハト稱ス外腸

乙子アイルコハイボガハ

丙子アイルコハイボガハ

甲子ノボイガイナ

骨動脈ノ内側ニ到リ、鼠蹊管ニ竄入シ、或ハ精系
及ヒ睪丸ノ袍被、或ハ圓靱帶、陰阜及ヒ陰唇ニ彌
蔓ハ一枝ヲ脚枝脚枝ト稱ス外腸骨動脈
ノ外側ヲ下行シ、ポーパルト靱帶ノ底下ニ到リ、
股ノ前部ノ皮膚ニ布蔓ス

乙子ノボイガイナ

第四外皮神經外皮神經ト稱ス、ハ第二三ノ
兩對腰神經ヨリ來リ、腸骨筋ヲ横行シテ、腸骨ノ
前上棘狀突起ノ下方ナル截間ニ到テ、腹腔ヲ出
テ、ポーパルト靱帶ノ底下ニ於テ、股筋莖ヲ穿貫
シテ、兩枝ニ分岐ス、其一枝ハ股ノ外部ナル皮膚

甲子ノボイガイナ

ニ布蔓シ、一枝ハ股ノ前部皮膚ニ布蔓シテ、膝ニ
達ス

第五鎖孔神經鎖孔神經ト稱ス、ハ第二第三第四對腰

神經ヨリ來リ、免筋ノ内縁ノ底下ヨリ出テ、骨盤
ノ側方ニ沿テ走り、鎖孔動靜兩脈ト共ニ鎖孔膜
ノ孔ヲ通過シテ、股ニ到リ、兩枝ニ分岐シ、其一枝

ハ大内送筋、外鎖孔筋ニ布蔓シ、且ツ股關節ニ織
維ヲ分與シ、一枝ハ、長短内送筋、耻骨筋及ヒ薄股
筋ニ布蔓シ、股ノ内側ニ於ケル皮膚ニ、織維ヲ分

投込蓋シ、此神經ハ前者ニ比スレハ大ナリ

甲子クリユリス

第六脚神經

ルクリユラモ

第二三四對腰神經

第六脚神經ルクリユラモ亦々第二三四對腰神經ヨリ來リ、兎筋ノ底下ヨリ出テ此筋ト腸骨筋トノ中間ノ溝中ヲ下行シ、ボトハルト靱帶ノ底下ニ到リ、骨盤腔ヲ出シ、爰ニ於テ、股筋莖ノ底下、即チ股動脈ノ稍外側ニ占據シテ、許多ノ枝別ト爲レリ。蓋シ此神經ハ、腰叢ノ枝別中最大ナル者ニシテ、骨盤腔中ニ於テハ、腸骨筋ニ枝別ヲ賦與シ、腔外ニ於テハ、四頭伸筋、縫匠筋及ヒ耻骨筋ニ枝別ヲ派授シ、且ツ左ノ神經ヲ分與ス

中皮神經

ユトリス、子ルダニ

ハ、縫匠筋及ヒ股

乙子キヨニスス

筋莖ヲ穿貫シ、股ノ前部膝ニ至ル迄ノ皮膚ニ

布蔓ス

口内皮神經

タイントルナルキユ

ハ股動靜脈ヲ

横行シテ内方ニ下行シ、筋莖ヲ穿貫シ、股ノ内

部膝ニ至ル迄ノ皮膚ニ布蔓ス

ハ長母神經

ロソングサ

ハ股動靜脈ニ伴ヒ

下行シテ此脈ノ大内送筋ヲ穿通スル所ニ到

ル乃チ辞シテ縫匠筋ノ底下ヲ下行シ、膝ニ到

ル而後チ此筋ノ腱ト薄股筋ノ腱トノ中間ニ

於テ筋莖ヲ貫穿シ、長母靜脈ト共ニ脛ノ内側

甲子キヨニスス

乙子キヨニスス

解剖學

卷之八

二七

又下行シテ跗ニ至ル其經歷中膝ノ上方ニ於テ著明ナル一枝ヲ派付ス此枝ハ縫匠筋及ヒ筋莖ヲ穿テ膝ヲ覆エル皮膚ニ布蔓ス自餘ノ經歷中ニ枝別ヲ分播シテ脛及ヒ跗ノ内側ヲ覆エル皮膚ニ布蔓此神經ハ前兩者ニ比スレハ最大ナル者ナリ

薦骨神經

薦骨神經

サカクダス

ハ五對アリ其大サ上ヨリ次第ニ减小ス而テ脊椎管中ニ在テ既ニ前後兩枝ニ分岐スルヲ以テ頸背腰三神經ニ比スレハ殊

甲子サカクダス

異ナリ

后枝

ボラステリス

ハ上方四對ニ於テハ同數ノ

后薦骨孔ヨリ出テ其第五對ハ脊椎管ノ末端ヨリ出ツ而テ皆ナ互ニ合吻シ且ツ尾底骨神經ノ

后枝ニ合シテ一列ノ環ヲ爲シ背伸筋及ヒ分裂

棘筋ノ初端及ヒ其近傍ノ皮膚ニ纖維ヲ播授

前枝

ブラステリス

ハ上方四對ニ於テハ同數ノ

前薦骨孔ヨリ出テ終對腰神經ノ前枝及ヒ第四對腰神經ノ前枝ノ一部ニ共ニ薦骨叢ヲ形成ス

其第五對ハ細小ニシテ脊椎管ノ末端ヨリ出テ

甲子コソシ

兩枝ニ分岐ス其一枝ハ第四薦骨神經ノ纖維ニ結合シテ交感神經ノ下腹叢ニ終リ一枝ハ尾底骨神經ニ結合ス

尾底骨神經

尾底骨神經

尾底骨神經ハ一對ナリ亦々脊椎管中ニ於テ前後兩枝ニ分岐スルヲ以テ頸背腰三

神經ニ比スレハ殊異ナリ

後枝ハ脊椎管ノ末端ヨリ出テ薦骨神經ニ合吻ス

前枝ハテリオルモ亦々脊椎管ノ末端ヨリ出

テ第五對薦骨神經ノ一枝ニ結合シ尾底骨筋及

ヒ大薦坐軟帶ヲ穿貫シテ其近傍腺ノ皮膚ニ終

ル此枝ハ薦骨神經ノ前枝ニ比スレハ尚才小ナ

リ

薦骨叢

薦骨叢ハ上方四對薦骨神經及ヒ終

對腰神經兩前枝ト第四對腰神經ノ前枝ノ一部

トノ結合ニテ形成ス三角狀ニシテ梨子狀筋ニ

占據シ骨盤筋莢ニテ内腸骨脉及ヒ其近傍ノ諸

臓ト分界シ大薦坐孔ヲ通過シテ骨盤腔ト出テ

甲子コソシ

多分大坐骨神經ト爲リ終ル蓋シ此叢ノ分隊中ニ就テ下方ノ腰神經ト薦骨神經ニテ形成スル者ハ大ニシテ第三對薦骨神經ニテ形成スル者ハ細小ナリ第四對薦骨神經ニテ形成スル者ハ其大サ前者ノ半バニ居レリ此叢其下部ヨリ交感神經ノ下腹叢梨子狀筋内鎖孔筋肛門舉筋肛門括約筋孖筋及ヒ方股筋ニ枝別ヲ賦授シ且以左ノ神經ヲ分與ス

大坐骨神經

上臀神經

陰具神經

小坐骨神經

甲子分テラスルリオル

第一^甲上臀神經

ヨリ來リ、殿動靜脈ト共ニ大薦坐孔ノ上部ニ於テ骨盤腔ヲ出テ兩枝ニ分岐シ、中殿小殿二筋ノ中間ヲ進行シテ、此兩筋ト股筵張筋ニ布蔓マ

第二陰具神經

リ、梨子狀筋ノ下部ニ於テ、大薦坐孔ヲ通過シ骨盤腔ヨリ出テ、坐骨棘ニ沿テ、后方ニ廻轉シ、小薦坐孔ヲ穿去シテ、骨盤腔ニ復歸シ、内陰具動脈ト坐骨直腸窩ノ上部ヲ伴行ス、而テ其枝別ハ、左ノ如シ

イ、下痔神經

ロ、イ、ン、ダ、ビ、子、ル、グ、ハ、前、者、ノ、初、端

ヨリ來リ、小薦坐孔ヲ穿過シテ前者ノ幹ニ伴

ヒ、直腸ノ末端ニ下行シ、肛門括約筋及ヒ其近

傍ノ皮膚ニ布蔓ス蓋シ此神經ハ直下ニ薦骨

韞ヨリ來ルアリ

口會陰神經

ヒ、子、レ、ニ、グ、ハ、淺、深、二、般、ノ、枝、別、ヨリ

成リ淺枝別

ル、ソ、ペ、レ、ス、ハ、會、陰、ノ、皮、膚、ニ、布

蔓シ深枝別

ラ、デ、ン、チ、ス、ハ、會、陰、及、ヒ、陰、莖、ノ、筋、ト、

陰囊ノ后部ニ布蔓ス、女子ニ於テハ、腔及ヒ肉

様光ノ筋ト前庭、大小兩陰唇ニ布蔓ス

イ、下痔神經

ロ、イ、ン、ダ、ビ、子、ル、グ、ハ、前、者、ノ、初、端

ヨリ來リ、小薦坐孔ヲ穿過シテ前者ノ幹ニ伴

ヒ、直腸ノ末端ニ下行シ、肛門括約筋及ヒ其近

傍ノ皮膚ニ布蔓ス蓋シ此神經ハ直下ニ薦骨

韞ヨリ來ルアリ

口會陰神經

ヒ、子、レ、ニ、グ、ハ、淺、深、二、般、ノ、枝、別、ヨリ

成リ淺枝別

ル、ソ、ペ、レ、ス、ハ、會、陰、ノ、皮、膚、ニ、布

蔓シ深枝別

ラ、デ、ン、チ、ス、ハ、會、陰、及、ヒ、陰、莖、ノ、筋、ト、

陰囊ノ后部ニ布蔓ス、女子ニ於テハ、腔及ヒ肉

様光ノ筋ト前庭、大小兩陰唇ニ布蔓ス

ハ陰莖背神經或ハ肉様光神經

ダ、ド、ル、サ、ル、子、ル

ク、ヲ、ア、ス、ハ、同、名、動、脈、ニ、伴、ヒ、蜂、窩、躰、ハ、海

綿躰ノ中間ヲ通過シテ、陰莖或ハ肉様光ノ背

ニ到リ、進ニテ龜頭ニ達ス、而テ蜂窩躰、海綿躰、

龜頭、前皮、陰莖ノ皮膚、或ハ小陰唇ノ上部ニ布

蔓ス

第三小坐骨神經

チ、ス、モ、キ、子、ル、グ、ハ、薦、骨、韞、ノ、下、部

ヨリ來リ、梨子狀筋ノ下部ニ於テ大薦坐孔ヲ通

過シ、骨盤腔ヨリ出テ、股脛右ニ下行シ其經歷中

上方ニ於テハ、大腓筋ノ底下、ニ在テ下腓神經及

甲子イテハイン存オラス

七陰具神經ヲ分付シ、而后チ股筋莖ノ底下ヲ下
行シ、過饒且ツ細微ナル皮枝ト爲リテ、股筋莖ヲ
穿貫シ、其近傍股脛ノ皮膚ニ布蔓ス

〔イ〕下^甲臀神經

イニテ、ル、チ、ル、ダ、リ、ハ、尋常其數二

個アリ、前者ノ初端ヨリ來リテ、大殿筋ニ布蔓

ス蓋シ此神經ハ、前者ニ接シテ、直チニ薦骨叢

ヨリ來ルル有リ

〔ロ〕陰具神經

ル、チ、ル、ダ、ハ、坐骨結節ノ下部ニ

沿テ、前方ニ彎曲シ、陰囊或ハ陰唇ニ布蔓ス此

神經ハ、前者ニ比スレハ大ナリ

乙子ギユタ子ス左モリ
スボステリオ

甲子イテハイン存オラス

第四^甲大坐骨神經

チ、キ、チ、ル、ダ、ハ、梨子狀筋ノ下

部ニ於テ、大薦坐孔ヲ經過シ、骨盤腔ヲ出テ、坐骨

結節ト大轉子ノ間隙中央ヲ下行シ、股ノ后部ニ

沿テ、其下部ニ到ル爰ニ於テ、内外兩膝膈神經ニ

分岐ス而シテ、其分岐スルヤ、其初端ト股ノ下部

トノ間、十全一定ノ點トシ、此神經ハ、薦骨叢ノ延

展ニシテ、身軀中最大ナル者ナリ

此神經、股ヲ下行スル間、股關節ニ關節纖維

チ、キ、

コラ、フラ、ヲ別賦シ、諸屈筋及ヒ大内送筋ニ筋枝

マ、ス、キ、ユ、ラ、ヲ分與ス、

フ、ラ、ン、チ、ム、

甲子、マスキユロキニタニナ

外膝膕神經 アキスデルナルボ ハ、斜ノニ膝膕ノ

外部ヲ下行シ輔腿骨ノ頭下ニ到リ此骨ト長輔

腿骨筋トノ中間ヲ通過シテ前小腿骨神經ト筋

皮神經トニ分歧ス其經歷中膝ノ關節ニ數個ノ

關節枝 アライチキスラ ト脛ノ外部ニ一對ノ皮枝

キユタニユス ヲ分與シ且ツ輔腿骨交通枝 ベロ

ルコムニユニケ ヲ生ス此交通枝ハ脛ノ后部

ヲ下行シテ短母神經ニ合吻ス蓋シ此神經ハ前

者ノ小ナル末枝ナリ

前小腿骨神經 アンテリオル ハ長諸趾伸筋ノ

解剖學 卷之十ノ

乙子、ロニマスキユロキニタニナ

丙子、コムニユニカニスアヒユリス

丁子、ホリスニナニナ

底下ヲ通過シテ骨間膜ノ前部ニ到リ前小腿骨

脈ト共ニ脛ヲ下行シ踝關節ノ前部ニ於テ兩枝

ニ分歧ス其一枝ハ短諸指伸筋ニ布蔓シ一枝ハ

足背動脈ニ從テ足ノ内部ニ布蔓ス此神經ハ其

經歷中、近傍ノ諸筋ニ纖維ヲ分與ス

筋皮神經 マスキユロキニタニナ ハ、輔腿骨筋ト長諸

趾伸筋トノ中間ヲ下行シ此筋ニ枝別ヲ付與シ

脛ノ前部ノ下方三分一ニ到リテ筋莖ヲ穿通シ

皮下神經トナリテ尚オ下行シ兩枝ニ分歧シテ

足背趾背ノ皮膚ニ布蔓ス

解剖學 卷之十ノ

甲 天ホリチウネシヒス

内膝膈神經

リイントルナル、ハ、大坐骨神經ノ

大末枝ニシテ其方向ヲ取りテ、膝膈ノ中央即チ

其脈ノ表位ニ占據シ、膝膈筋ノ下縁ニ到リ、乃チ

后小腿骨神經ノ名ヲ受テ其經歷中、膝關節ニ三

個ノ關節枝 ブアチキユラ ヲ派付シ、腓腸、履底、足

蹠、膝膈四筋ニ筋枝 ブラスキユラ ヲ分與シ而シテ

尚且ツ其他ニ於テ亦タ短母神經 ノシヨルト、サレ

ヲ分與ス、此神經ハ、腓腸筋ト筋莖ノ中間ヲ下行

シ、殆ト脛ノ中央ニ到リ、筋莖ヲ穿貫シ、皮下神經

ト爲リ、而后チ尋常外膝膈神經ノ輔腿骨交通枝

乙 天ホリチウネシヒス

丙 子、コムニユニカニスヲ
ビユラリス

ベロニールコムニユニ ヲ受ケ、短母靜脈ト、共ニ

跗ノ外側ニ下行シ、爰ニ布蔓ス

后小腿骨神經 ビボアステリオル ハ、膝膈ノ下端ヨ

リ、内膝膈神經ノ延長スル者ニシテ、后小腿骨脈

ト、共ニ脛ノ后方ヲ下行シ、内踝ノ后方ニ於テ、内

外兩足蹠神經ニ分岐シ、其經歷中、后小腿骨筋及

ヒ長諸趾屈筋ニ筋枝 ブラスキユラ ヲ分授シ、踵ノ

皮膚ニ皮枝ヲ付與ス

内足蹠神經 ラインタルナル ハ、同名ノ動脈ト、共

ニ足蹠ヲ進行シ、短諸趾屈筋、大趾内送筋、及ヒ足

甲 子、コムニユニカニスヲ
ビユラリス

蹠ノ皮膚ニ枝別ヲ分與シ、蹠骨ノ后方ニ於テ四
 個ノ趾神經デジタルニ分岐ス、其一個ハ大趾ノ
 内側ニ沿テ走り余ノ三個ハ次位同數ノ蹠骨間
 隙ヲ前方ニ進行シ、各々兩枝ニ分岐シテ次位三
 趾ノ相接スル側ニ布蔓ス蓋シ此趾神經ハ皆十
 短大趾屈筋及ヒ近傍ノ蟲狀筋ニモ布蔓ス
 外足蹠神經エキスデルナルハ短諸趾屈筋ト
 副屈筋ノ中間ヲ通過シ、足ノ外側ニ到ル其徑歷
 中、短諸趾屈筋、副屈筋、小趾ノ諸筋、大趾内送筋、骨
 間筋、横筋及ヒ外蟲狀筋ニ筋枝マスキユスヲ分

甲子ノランタリスキムル

與シ且ツ足蹠ノ外部ニ皮纖維キユタニユトヲ
 別授シテ自ラ兩趾神經デジタルニ分岐ス而シ
 テ此趾神經ハ小趾ノ外側及ヒ小趾ト次趾ト相
 接スル兩側ニ布蔓ス蓋シ此足蹠神經ハ后小腿
 骨神經ノ末枝中細小ナル者ナリ

交感神經統系

甲 交感神經統系

シ、ン、バ、ジ、チ、キ、シ、ス、ハ、腦脊髓神經

甲子ノランタリスキムル

統系ノ如ク兩側對位ノ者ニシテ兩個ノ神經節
 條ヨリ成リ多分身躰大腔中諸臟ニ布蔓ス其神
 經ハ腦脊髓神經ニ比スレハ概子細小ニシテ強

靱著明ナラス、通常灰色ヲ呈シ、許多ノ神經節ヲ
具有シ、過饒ノ結締織ニテ、其近傍ノ組織ニ固着
ス

神經節條

テガン、コドリ、エー

ハ、身軀ノ各側、即チ脊椎

柱ノ兩側ニ位シ、互ニ併行シテ薦骨上ニ下行シ、

爰ヨリ漸次ニ會合シ、一小節ト爲リ、尾底骨ニ占

據ス、其神經節ハ、頸部ニ於テハ唯々三個有リテ、

自餘ハ其數脊椎柱ノ椎片ニ配シ、皆チ兩統系神

經纖維ノ錯綜ヨリ形成セル短矮細微ナル神經

ニテ、其近傍ノ腦脊髓神經ニ結合シ、其神經ハ多

ク其近傍血管ノ徑歴ニ從ヒ、其所領ノ部位ニ到
ルト雖凡巨大且ツ許多ノ者ハ錯綜シタル三個
ノ叢ヲ形成ス

此三叢ハ、兩側匹同ニシテ脊椎ノ前面ニ於テ胸

腔、腹腔及ヒ骨盤腔中ニ位シ、兩統系ノ神經ニ交

通シ、許多ナル神經節ヲ具有シ、許多ナル小叢ト

爲レリ、上方ヨリ之ヲ算起セハ心叢、大陽叢及ヒ

下腹叢是レナリ、其小叢モ亦タ其近傍血管ノ徑

歴ニ從ヒ、其所領ノ部位ニ到ル

此神經節條ハ、其徑歴中所領ノ部位ニ從ヒ、頸背

腰薦骨四部ニ分チ、其叢ハ三個ニ區別シ辨説ニ
便ナラシメ以下之ヲ論ス

頸部交感神經

頸部交感神經ハ頸椎前面ノ諸筋及ヒ大血管ノ
后方ニ占據シ、三個ノ神經節ヲ具有ス、其部位ニ
從ヒ之ヲ上中下頸神經節ト稱ス

上頸神經節

カノペリオルセルギンガリヲンハ形チ紡錘狀ニ

シテ頸椎ノ第二第三片ノ前方、内頸動脈ノ后方、
即チ大直筋ニ占據シ、數個ノ纖維ニテ、上方四個
ノ脊髓神經、舌咽頭神經ノ岩狀神經節、肺胃神經

甲
カノペリオルセルギンガリヲン

甲
ラモスアスセンテス

ノ神經節及ヒ舌下神經ニ結合ス而テ中頸神經
節ニ交通シ上行脈絡ノ二枝及ヒ咽頭上心兩神
經ヲ分與ス蓋シ此神經節ハ三個中最大ナル者
ナリ

第一^甲上行枝

バアブスレシチンハ内頸動脈ニ伴行ス

此交感神經ノ連續ニシテ、顛顛骨ノ頸動脈孔ヲ
通過シ、二枝ニ分レ、此枝亦々再分シ、互ニ動脈ノ
周圍ニ於テ交通シ、以テ頸動脈叢

カロヲソド、プレキシユス

ヲ形成ス此叢ハ、一二個ノ纖維ニテ外送神經ニ
結合シ、且ツ翼狀神經ノ深岩狀枝ニテ翼狀口蓋

甲子ルウキモルレ

神經節ニ締結ス而テ尚オ頸動脈上ヲ連續進行
 シテ蜂窩竇ニ到リ蜂窩竇叢カレダレヤルシクニスヲ形
 成ス此叢モ亦々細微ナル纖維ニテ三枝神經ノ
 半月様神經節動眼神經滑車神經眼神經及ヒ眼
 神經節ニ結合ス蓋シ此兩叢モ亦々此ニ細微ナ
 ル纖維ヲ生シテ此動脈ノ枝別ニ伴行セシム
 第二脈絡枝ウエスキユラハ外頸動脈ヲ纏絡シテ
 枝上ニ叢ヲ形成シ顔面動脈ト内腭動脈上ノ叢
 ニテ腭下神經節及ヒ耳神經節ニ交通ス

第三咽頭神經

ハスレシダスハ二個或ハ三個有リ

甲子ルウキモルレ

甲子ルウキモルレ

テ咽頭ノ側方ヲ下行シ舌咽頭肺胃兩神經ヨリ
 來レル枝別ト共ニ咽頭叢ハスレシダスヲ形成
 シ以テ咽頭ノ諸筋ト粘膜ニ布蔓ス

第四上心神經

シソアケリオルカレハ上頸神經節及

ヒ其條ヨリ來リ大血管ノ后方ヲ下行シテ胸腔
 ニ竄入ス而テ右側ニ於テハ鎖骨下動脈ノ前方
 或ハ其后方ヲ通過シ而后キ無名動脈ニ沿テ大
 動脈弓ニ到リ心叢ノ深部ニ終ル左側ニ於テハ
 頸動脈ニ沿テ大動脈弓ニ到リ心叢ノ表部ニ終
 ル此神經其徑歴中肺胃神經ヨリ枝別ヲ受容シ

甲 カガリヲセルカ
レメジユス

丙 カガリヲセルカ
レメジユス

乙 カガリヲセルカ
レメジユス

下甲狀動脈ニ纖維ヲ分與ス
 中頭神經節三ノドセルカガリヲクハ頭椎ノ第五片ニ
 對シテ下甲狀動脈ニ占據シ、下頭神經節ニ結合
 シ、且ツ數個ノ纖維ニテ第五六兩脊髓神經ニ結
 合ス、而テ下甲狀動脈ニ枝別ヲ併セテ中心神經
 ヲ分與ス、蓋シ此神經節ハ間、下頭神經節ニ附着
 シ、細小ニシテ著明ナラサレ、アリ中心神經ツ
 ドル、カレダシ、頸ノ下部ヲ下行シ、上下心兩神經及
 アク、子ルダシ、頸ノ下部ヲ下行シ、上下心兩神經及
 ヒ肺胃神經ニ交通シ、心叢ノ深部ニ終ル
 下頭神經節クイルガシオリオセルカハ、形チ不整ナ

甲 カガリヲセルカ
レメジユス

ル半月様ニシテ、脊椎動脈ノ后方、即チ頸椎終片
 ノ横突起ト肋骨初片ノ中間ニ位シ、數枝ニテ第
 一背神經節及ヒ第七八兩脊髓神經ニ交通ス、而
 テ纖維ヲ付授シテ脊椎動脈ニ伴行スル叢ヲ形
 成シ、且ツ下頭神經ヲ分與ス、下頭神經オイルカリ
 ジアク、ハ中心神經及ヒ下喉頭神經ニ交通シ、而
 后チ心叢ノ深部ニ終ル間、第一背神經節ヨリ枝
 別ヲ受容スル、アリ左側ニ於テハ屢、中心神經
 癒着スル、有リ

心叢

甲
カシミアクアレキエス

角部

卷之十

三十三

心叢 カシミアクアレキエス 三個ノ心神經ト、第一背神經節及ヒ肺胃神經ノ枝別トニテ成リ、大動脈ノ后下方ニ位シ、肺動脈分岐ノ點ニ於テ、或ハ一個或ハ二個ノ小神經節、即チ心神經節ヲ含有シ、延展シテ冠動脈ニ伴行ス、之ヲ冠叢トシテ呼ス。

背部交感神經 脊髄ノ一線ニ沿テ、脊推柱ノ側方ニ位シ、胸膜ニテ被覆シ、其神經節ハ都テ十二個有リ、形チ不正ナル三角ニシテ、皆チ各、二個

甲
カシミアクアレキエス

ノ纖維ニテ其近傍ノ肋間神經ニ結合ス而メ、初個ハ終頸神經節ニ結合シ、終個ハ横隔ヲ經過シテ、第一腰神經ニ交通シ、蓋シ上方六個ハ大動脈、肋間脈、肺胃神經ノ胃管叢ト其肺叢ニ枝別ヲ附シ、下方六個ハ大動脈ニ纖維ヲ附スルノ他、枝別ヲ生シ、三個ノ内臓神經ヲ形成ス。

大内臓神經 カシミアクアレキエス 第六乃至第十背神經節ヨリ來リ、斜メニ脊椎ノ躰ヲ下行シ、横隔脚ヲ穿貫シテ、半月様神經節ニ終ル。

小内臓神經 カシミアクアレキエス 第十背神經節ニ終ル。

乙
カシミアクアレキエス

解列川

卷之十

三十四

甲
クマノマキキ
ノキシテ

蔓スル左ノ如シ

横隔叢 レフキニユス ハ兩側ノ同名動脈ニ從ヒ、横

隔ニ布蔓ス

冠叢 レコキシユス、レハ 肝叢 レハ 及ヒ脾叢 レハ

レモ亦タ同名動脈ニ從ヒ、胃、肝、脾及ヒ

脾ニ布蔓ス

副腎叢 レハ 副腎ニ布蔓ス蓋シ此叢

ハ其所領ノ内臓ニ比較スレハ大ニシテ通常一

個ノ神経節ヲ含有ス

腎叢 レハ 同名動脈ニ從ヒ腎ニ布蔓ス

此叢ハ第三内臓神経ヲ受容シ、數個ノ小神経節

ヲ含有ス爰ニ一個ノ崩蘂有リテ精系動脈ノ徑

歴ニ從ヒ、畢丸ニ布蔓ス之ヲ精系叢 レハ

ト稱ス

上腸間膜叢 レハ 同名動脈ニ

從ヒ、大小兩腸ニ布蔓ス此叢ハ其初端ニ數個ノ

小神経節ヲ含有ス

大動脈叢 レハ 大動脈上ヲ下行シテ

其兩側直チニ腎叢ニ結合シ、腰神経節ヨリ來レ

ル枝別ヲ受容シ、下腹叢ニ終止此叢ハ、大陽叢ノ

延展スル者ナリ
下腸間膜叢 テイシキ、プリオル、キシユス ハ前者ヨリ來
リ、同名動脈ニ從ヒ、大腸ニ布蔓ス

腰部交感神經

腰部交感神經ハ背部ノ延展ニシテ兎筋起點ノ
前縁ニ沿ヒ、腰椎ハ側方ニ占據ス其神經節ハ四
個或ハ五個有リテ、形チ細長ナル卵圓狀ナリ各
一對ノ交通纖維ニテ、其近傍ノ腰神經ニ結合シ、
且ツ近傍ノ大動脈叢及ヒ下腹叢ニ枝別ヲ付ス
薦骨部交感神經

甲
アレキニハ、ボカストリコス

薦骨初交感神經ハ、前薦骨孔ノ内側ニ位シ、尾底
骨前面ノ一個ノ小神經節ニ終ル其神經節ハ通
常四個有リテ、其大サ逐次ニ減ス而テ各一對ノ
交通纖維ニテ、近傍ノ脊髓神經ニ締合シ、且ツ下
腹叢ニ枝別ヲ附ス

下腹叢

甲
下腹叢

ハイポガストリキ ハ、兩普通腸骨脈ノ中間

ニ位シ、直腸ノ兩側ニ達ス蓋シ此叢ハ大陽叢ニ
比スレハ、多ク錯綜シテ、大動脈叢ノ末端ト、下方
ノ腰神經、薦骨神經節、下方二三個ノ薦骨神經及

甲 プレキシユス、ウシカリス
エト、プロスタチコス

乙 プレキシユス、ウシカリス
エト、ウジナリス

丙 プレキシユス、ユテリス

ヒ下腸間膜叢ヨリ來レル枝別トニテ形成シ、麤
 糲ナル許多ノ結締織ヲ混合シ、細小幽微ナル數
 個ノ神經節ヲ含有シ、且ツ左ノ小叢ヲ分與ス
 膀胱攝護腺叢キ、ウシコプロスタチ
 攝護腺ト精囊ニ布蔓ス
 膀胱腔叢ウシコウジナルハ、婦人ニ在リ前者ニ
 代エル者ニシテ、腔ト膀胱ノ側方ニ布蔓ス
 子宮叢ユテライニスハ、廣靱帶ノ兩層間ニ布蔓
 シテ、子宮ニ達ス
 解剖訓蒙卷之十八終

啟蒙義舎藏版

發兌書肆

大坂心齋橋通唐物町

淺井吉兵衛

新刊書報

新刊書報

新刊書報

新刊書報

新刊書報

